令和6年度　江戸川区立篠崎第二中学校　学校関係者評価報告書（学校経営計画・学校関係者評価シート）

学校教育目標	○ 探求心をもち学ぶ生徒 ○ 礼儀正しく豊かな心をもつ生徒 ○ 健やかな体をもつ生徒		目指す学校像 目指す生徒像 目指す教師像	「互いに認め合い、高めあえる学校」「保護者や地域から信頼される学校」 ①自分から進んで学び、対話を通して深く考え、行動することができる生徒　②自他の命を大切にし、仲間を思いやり、人と上手に接することができる生徒　③「篠二中」や地域を愛し、広い視野をもち、仲間や社会の役に立つことができる生徒 ①生徒の気持ちや考えを理解し、対話を大切にしながら、生徒と接することができる教職員　②生徒が自己実現のための意欲と行動力を身に付けるため、生徒の学びを支援できる教職員　③保護者の願いや社会の期待を自覚し、未来を生きる生徒を育成することができる教職員　④未来を生きる生徒とともに自己啓発と自己変革に意欲的に取り組むことができる教職員
前年度までの本校の現状	成果	○　感染症対策で停滞していた教育活動に、生徒の自主性・主体性を取り入れ、改革・充実を推進した。 ○　保護者や地域に教育活動を公開するとともに、連携協力を深め、地域の学校としての機能を発展できた。	課題	○　教育活動のさらなる充実に向けて、前例にとらわれることなく、同僚性と協働性を発揮できる教職員集団を構築すること ○　生徒一人一人の自己有用感を高め、学力向上・体力向上を推進すること

重点	取組項目	具体的な取組内容	数値目標	達成度		「中間」 自己（学校）評価(A～D)		「中間」 学校関係者評価(A～D)		「年度末」 自己（学校）評価（A～D）		「年度末」 学校関係者評価（A～D）		次年度に向けた改善案
				９月	２月	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	評価	コメント	
学力の向上	○基礎学力の充実	・学習コンテスト（国数英）年間各２回実施 ・数学単元別検定の実施	・各コンテスト目標達成者：８０％ ・各検定合格者：６０％	B	A	B	・数値目標は達成できている。	C	・生徒一人一人の学力向上を推進してほしい。	A	検定合格者は回を追うごとに増加している。	B	引き続き学力向上に力を入れてほしい。	学習コンテストに再テストを導入し、基礎基本の定着を推進する。
	○家庭学習の充実	・ﾒﾃﾞｨｱｺﾝﾄﾛｰﾙﾁｬﾚﾝｼﾞ週間を年間２回実施	・メディア使用時間－３０％ 家庭学習時間＋１時間	C	A	C	・数値目標を達成できていない。 ・朝礼等で呼びかけを継続する。	C	・メディア使用時間、家庭学習時間共に家庭で指導していきたいが、学校での指導もお願いしたい。	A	生徒の意識の変容が見られる。メディ使用時間が減少した生徒の割合が増加した。	B	メディア利用時間をもっと減少させたい。	チャレンジ週間の継続と生徒主体の取組を導入し、改善を図る。
	○読書科の更なる充実	・探究的な学習の課題を学期に１回設定	・探究的な学習の成果物を学期に１つ作成	C	B	C	・指導計画から、成果物は作成できない学年もあった。	C	・学習過程や学習成果を知る機会を設けてほしい。	B	生徒が課題を設定し、探究活動を行った。成果物の完成度を高める課題がある。	B	生徒の発表する機会や見る機会を設けてほしい。	学年発表や全体発表の場を設け、生徒の意欲を喚起する。
体力の向上	○個に応じた体力向上のための取り組みの実施・充実	・体育授業時の毎時間補強運動の実施 ・運動部活動における補強運動の実施	・体力テスト結果で都平均以上４種目	B	B	B	・事前指導は充実した。 ・体力テスト結果はまだ公表されていない。	B	・運動を行う場面をもっと作ってほしい。	B	持久走を体育の補強運動に導入し、体力向上を図った。	B	楽しく運動する機会をさらに増やしてほしい。	昼休みの外遊びを奨励し、運動機会の提供を推進する。
	○昼休み・家庭での運動の奨励	・昼休みの活動時間及び活動場所の確保 ・家庭での活動方法の提示	・余暇場面での運動量の増加・生徒アンケート肯定的評価８０％以上	B	B	B	・生徒アンケートは数値目標を達成した。	B	・家庭での運動をどのようにするか提示してほしい。	B	アンケート結果は良かったが、家庭での運動場面は紹介できなかった。	B	家庭で体を動かす機会がなく、声かけも難しい。	体育の時間、昼休み、部活動、家庭と連動した運動機会を設定していく。
共生社会の実現に向けた教育の推進	○校内特別支援教育推進委員会の充実	・毎週１時間の実施 ・情報収集、共有、発信の徹底	・校内評価において肯定的評価９０％以上	B	B	B	・毎週の実施はできたが、情報の共有や利活用については十分とは言えなかった。	C	・どのようなことがなされているのかが不明である。	B	校内委員会からの発信により、共有理解共通実践が行われるようになった。	C	取組の実態がよくわからない。	特別支援養育への理解啓発を推進していく。
	○授業におけるユニバーサルデザインの徹底	・校内研修会の実施 ・授業観察等における指導助言	・校内評価において肯定的評価９０％以上	B	B	A	・講師を招き、研修会を行い、教員の理解が深まった。	B	・生徒の個性や特性に応じた指導を一生充実してほしい。	B	校内研修会を踏まえ、共通実践が定着しつつある。	B	落ち着いた雰囲気で授業が行えているのが良い。	授業のユニバーサルデザインの推進のため、共通実践事項をより明確にし取組を充実する。

不登校・いじめ対応の充実	○豊かな心の育成	・人権教室、人権作文の実施 ・ボランティア活動の奨励	・人権作文：提出率１００％ ・延べ２００名の参加	B	B	B	・人権作文提出率は８２％であった。 ・ボランティアの参加は2学期を中心に実施する。	B	・地域行事やＰＴＡ行事に生徒をより多く参加させてほしい。	C	協力できる活動には生徒の参加が見られたが、目標値には達しなかった。	C	ボランティアへの参加をもっと進めてほしい。	自ら進んでボランティアに参加する生徒を増やすため、教員の意識改革も行う。
	○ステップルーム（不登校別室）の充実	・週５日間の開室 ・支援員と担任等との連携強化	・利用生徒の教室復帰率５０％	C	B	C	・利用者は登校日が増え、別室の効果は高いものがある。 ・教室で過ごす時間が増加している生徒もいる。	B	・別室の存在は生徒にとってとても重要である。今後も設置を続けてほしい。	B	教室と併用する生徒が増加した。教室の周知が進んだ。	B	登校できる場所があることは大変ありがたい。	次年度エンカレッジサポーター事業としてより活性化を推進する。
地域社会に開かれた学校（園）の実現	○学校ホームページ等の充実	・ホームページの更新：週４回以上 ・学校だより：月１回発行	・保護者アンケートにおける肯定的評価：９０％以上	A	A	A	・充実した広報活動が行えた。	A	・学校だよりや学年だよりで学校の様子を知ることができ、ありがたい。	A	ほぼ毎日更新できた。	B	学校の様子がよくわかる。 掲載される学年に偏りがある。	学年担当を明確にし、教育活動全般の広報活動を行う。
	○学校関係者等評価の充実	・生徒アンケート、保護者アンケートの実施（年２回）	・全質問について肯定的評価８０％以上	B	A	B	・数値目標はおおむね達成できたが、回答率を高めることが課題である。	A	・評価できる取組とさらに改善を求めたい取組がある。よろしくお願いしたい。	B	回答数が増加していかない。	B	回答するための情報がない質問項目がある。	質問内容や回答方法の改善を図る。
特色ある教育の展開	○働き方改革の推進	・月１回の定時退勤日の設定 ・年次有給休暇１５日以上取得	・全教職員の月残業時間55時間以下 ・１５日以上取得７０％以上	B	B	B	・月残業時間が55時間を超える教職員の減少に努めたい。	B	・遅くまで対応してくださることもあり、感謝している。	B	働き方が二極化している。	B	遅くまで対応していただけているが、働き方の改善も必要と思う。	校務の効率化、共同化を推進し、休暇の取りやすい職場を構築する。
	○教員研修の実施	・年間１２回の校内研修会の実施	・教育課題研修２回 ・校内授業研究２回 ・服務事故防止研修３回+適宜 ・その他５回	A	A	A	・数値目標を着実に達成している。	B	・研修等により、教育活動や指導力の充実を推進してほしい。	A	研究授業での積極的な意見交換が見られた。	B	授業力に差がある。もっと指導力を高めてほしい。	実態に応じた研修を設定し、教師として身につけるべき資質能力を着実に養成していく。